

大工二日中

シネスコ版

No. 599

40.7.9

一、「良識の府」に審判

—参院選挙—

参院半数改選通常選挙は全国に激烈な舌戦を繰り広げました。なかでも首都東京地方区は四議席に三十九人がしのぎを削り、盛り場は立錐の余地もない選挙車の洪水。口角泡をとばす候補者、それに油をそそぐ泡沫といわれる候補者。有権者に渋い顔を買っています。選挙戦は各党にとって党首交代、新党結成の初陣と夫々雌雄を決する時だけにその票読みは慎重、殊に自民、社会の対決は各候補を抱っこして党首激突の場面があちこちで見られました。

投票日の前日、戦い終った各候補は夫々の恩感を胸に、国民の審判を待つのみ。

七月四日、国民の審判の日。各投票所は好調の出足をみせ、物価値下げを祈って、世界の平和を願って国政に携る唯一の機会を有効裡に投じ終えました。果して代議士先生、白晝の殿堂でこの清き一票を憶えていて下さることやら……。

開票は順調に進み九州熊本の豪雨地を除いて、その大勢は決定しました。自民は全国区で順調に伸びたが地方区では頭打ち。殊に東京では完敗という最悪の状態。社会党は地方区で笑いが止まらず、公明党は予想通り全国区全員当選、民社以外の不振に終わったのです。

一、「吉展ちゃん」ついに帰らず

無事であってほしいという国民の願いもむなしく、吉展ちゃんはやっぱり殺されています。当局のきびしい追及にふてくされていた最後の容疑者小原は七月三日夜「私がやった」とついに自供しました。

解決までに二年三ヶ月、地道な捜査がやっとみえたのです。東京南千住円通寺境内の墓の中に小さな体を折りまげるようにして吉展ちゃんはみつづられました。

二年余の歳月に変わり果てた小さな遺体に父親の繁雄さんは声もありませんでした。むごい、それはあまりにもむごいものでした。三十八年三月三十一日吉展ちゃんが行方不明になってから捜査陣の出足の遅れは至命的でした。初動捜査の空白は、捜査陣の焦燥となって表われ、七日の身代金受け渡し時の張り込みでは、警視庁始まって以来という失態を演じてしまいました。

それらがいたずらに捜査を長びかせたといえましょう。村越家は深い悲しみに閉ざされました。玄関わきの居間に祭壇がしつらえられ、位牌が新しい悲しみをさそいます。両親の悲しみは深く、いつまでも消えることはないでしょう。

営利誘いは、戦後三十四件を数え、その中でたった一つ未解決だった吉展ちゃん事件が解決したわけです。営利誘いは一〇〇多の検挙率。

捜査当局の血のにじむような努力で営利誘いは絶対成功しないということを実証したのです。

202分

415分

617分

制作・配給

中日新聞
東京中日新聞

東京新聞
中日新聞
新映画